

202

特 251

40

位春吉先生述

ファッショ運動と

伊太利の農村振興政策に就て



0000936-000

特 251-40

ファッショ運動と伊太利の農村
振興政策に就て

下位春吉・述

長野県人東京联合会

昭和8

AAB

この著作物は、著作権者不明のため、著作権法
第67条の規定に基づき、平成12年5月15日
付けで文化庁長官の裁定を受け使用するものです。

須學他山石



信水題



挨拶

長野縣人東京聯合會々長 今井五介

下位先生は御承知の通り世界大戰より遂先頃まで、二十餘年間に涉つて伊太利に在り、ナポリ大學の教授として文豪ダマンチオの親友として、又世界的偉人ムツソリーニの相談相手として日本固有の精神を鼓吹し、或は戦線に銃を執り、亡國に瀕する伊太利をして今日の強大を致さしめた偉業に貢献して侯爵を授けられ、又無官の大使として祖國のために活躍された功勞者であります。只今先生より伊太利を今日の一等國たらしめた政策、其以前の國情、聯盟各國調印濟となり當然失はるべきヒウメに對しダマンチオと共に先生が其同志僅々一千名の青年との結束によつて奪還したる實情、或は疲弊困憊其極に達した國難に當つて短年月の間に共產黨を排撃して世界の驚嘆する異常

の發展をなさしめたるムツソリーニの活躍、就中農村振興策等について真相を語り得る人は先生を措いて他に無いのであります。又今日の日本の國情に對し是非伺はなければならぬ事であると信じまして特に御講演を御願ひする次第であります。

先生には御歸朝早々のことであり非常に御多忙中にも拘らず御快諾下さいました上に、一時間や二時間の短時間では御免を蒙る、少くとも四時間位無ければ徹底した話は出来ぬ。との御言葉でありましたが、それは私共も希望するところで、悠つくり熱烈なる愛國の至情に燃ゆるお話を伺へる次第であります。

實は私も大正八年歐羅巴へ参りました折、先生にお目にかゝり、非常に御厄介になり、何かと便宜を與へられました、今日又御講演を拜聴するの機會を得ましたことを深く感謝する次第であります。

フアツシヨ 運動と伊太利の農村振興政策に就て

講師 下位 春吉

フアツシヨ運動とは

結束運動と言ふ意味である

御紹介を頂きました下位春吉でございます。私は世界大戦前、まだ日本に居ました頃は、七八年教壇に立つて学校の先生といふ極めて謹直な生活をしてゐたことがあります。それが世界大戦の初め日本も大戦に参加し、イタリーも亦是に参加しやうかしまいかといふ、大正四年に私はイタリーの招聘であちらへ行きました。初め学校の先生といふことで呼ばれて行きましたのが、世界大戦となつて、陸軍總司令官のナポリと知つた人に會つた關係から、イタリーの軍人がどういふ氣持で、またどんな態度で戦争をしてゐるか、と云ふことの實際を見て呉れると大變都合が宜いからといふので、それは大變結構だといふことで軍服を着け塹壕の中に這入り込んだのが間違ひの初まり

であります。

それから後はあちらこちらと戦線を飛び廻つて居りました。そんなことからイタリアの政府から戦争の勳章を六つ七つ貰つてしまひました。大戦後イタリアの當然取るべきところのヒウメを抛棄せねばならなくなりました時に、イタリアはどうしても是を國民の手によつて取返さねばならぬ、然らざればイタリアは地中海に滅亡することになると云ふので、當時七十歳を越して居た老詩人ダヌンチオを初め少壯氣鋭の一千名が奮然騒起しました。その時私も三個中隊の決死隊の一人としてヒウメの司令部に居りました關係から、前後を通じてイタリアのファツショ運動に對しましても陰に陽に力を盡して居つたのであります。今度日本へ急に飛んで参りまして、まだやう／＼三週間であつて、日本が今どういふ風に動いて居るか、その様子さえも分らない有様であります。唯見て来たところのイタリアに就て知つて居るだけで、別に私はイタリアを調査した者のやうに見て居られる人もあるが、それは間違ひであります。私はイタリアを研究した者でも調査した者でもない。唯イタリアを見、イタリアで生活して来たといふに過ぎないので、さういふ立場から私の知つて居ることだけを極めて杜撰に極めて断片的に直観的なことを、何等系統もなく、何等の議論もせず、唯イタリアにはどういふ氣持が動いて居るか、世界大戦からどういふ苦汁を嘗めて、どう云ふ氣持か

らイタリアの青年が戦闘に立つたか、當時ムツソリーニはどういふ氣持で國の立直しを始めたか、現在どういふ方針によつて、どんな仕事をして居るか、かういふことについて、是は研究でもなく調査でもなく自ら直観的の知つて居ること、そんなことについて一通り申上げたいといふやうに考へて居ります。

大體私の話はファツショ運動が起りまして、さうして政權を執りました大正十一年の秋までの大體の成行きが一つ。其後イタリアの立直しについてはどう云ふ精神で、どういふ方面に力を入れてその後は大體どうなつておるか云ふことについて申上げたい。従つて前にも申したやうに話はどういふ方面に脱線するか、またどんな方面に飛火するか分りませぬが、唯この二つについてイタリアの最近に於ける過去の様子、現在の様子を中心にして申上げて見ませう。

其の前に申述べて置きたいのは、今のこのファツショ運動といふことについて、非常に日本で色々誤解があるやうであります。誤解がないまでも不理解があるやうに思ひますので、ファツショ運動といふことについて、之を大體説明をして置く必要があります。滿洲事變以來急にファツショと云ふ言葉が盛んに使はれるやうになり、ファシズムとか、ファシスターとか云ふ言葉が新聞、雑誌などにも随分あるが、この言葉は私の話の根本ともなるので、この言葉について大體説明をして置

かないと後の話がしにくいから申上げて置きます。

四

イタリアのファツシヨ運動といひますとそのファツシヨと云ふ言葉は決して新しい言葉ではない。大昔からあるイタリアの言葉で、是は普通の文字で「束」と云ふ言葉であります、即ち結束の束で、薪一束とか、野菜一束とかいふ束といふ字であります。英語のファツスンと云ふ言葉でファツシヨ運動と云ふのは束運動と云ふので、結び束ねて一緒になつて運動する結束運動であります。誰もぐすく言はないで十人なら十人が大體同じ方針で以て行動をする。即ち舉國一致と云ふやうな結束運動であります。それでこのファツシヨ運動の中に這入つて居る人がファツシスターで、その主義方針を積極的に行ふことをファツシズムといふ言葉を使つて居ります。夫で能くファシストと云ふ人があるが、このファシストといふ言葉は絶対にありませぬ。一人の場合はファツシスターであるが、二人以上の場合をファツシストと運動の名前の言葉に書いて居るのは間違ひで、是は運動そのもの、の名前ではないのであります。例へば簡単に言ふと、佛教徒といふのはその人の名前で佛教と云ふ宗教はあつても佛教徒と云ふ宗教のないのと同様であります。このファツシヨ運動の根本精神は所謂ファツシズムで國家至上主義であります。ウイルソンが嘗て唱へた國際主義とか平民主義とかいふやうなことは全世界で實行することが出來ず、この國家主義、國家至上主義が段々唱

へられる様になり、今世界各国は國家といふものを單位として皆論議せらるゝやうになり、やれ人類愛だとか、國際主義だとか、平和主義だとかいふやうな考へはその蔭を潜め、唯國家といふものを強くしなければ駄目だといふ、國家を單位に叫ばれる議論が益々盛んになつて來て居ります。

共產主義の全敗

ファシズムの國家至上主義

去年の八月九月にかけてベルギーに炭坑、鑛山従業労働者の大規模なストライキに對し共產主義者等がその運動を煽動して、ベルギー政府に向つて要求をした。さうしてベルギーには失業者が多いのに、その内にドイツ、イタリアなどの外國労働者が澤山居る。ベルギーの失業労働者がうよ／＼して居るのに外國の労働者が澤山這入り込んで居るのは不都合である。外國の労働者に職を授ける前に。先づベルギーの労働失業者に職を與へよと、ベルギー政府に要求した。とう／＼ベルギー政府はこの要求に對して頭を下げた。さうして外國労働者を全部國外に放逐して仕舞つた。かくしてベルギーの労働失業者に職を與へた。是と同様にフランスに於ても外國の労働者を皆追出してフランスの失業労働者に職を與へた。是に對しフランス及ベルギーの共產主義者は吾等

五

は戦に勝てりと凱歌を挙げたが、私は是は共產主義者の全敗であると思つて居る。由來「共產主義者は國家を認めない、國境を認めない、世界の労働者は皆共通である」と云ふのが精神であるから、その労働者と云ふもの、中に、ドイツ人が居らうと、イタリア人が居らうとそんなことは構はない。何れの國の人にも職を授けるのがその主義である。夫を自國の労働者のみに職を授けて、外國の労働者は皆追放したといふことは、共產主義の立場から言ふと恐らく全敗だと思ひます。共產主義は絶対に國家を認めないに拘らず、是によつて國家主義、國家の貴さを如實に認めまた立證したので、是は共產主義が勝つたのではなく、全敗したのであります。

ファツシズムの國家至上主義は三つの綱領から成立つて居るのであります。「總ては國家の中に」是が一。「多くの者は國家を主體に」是が二。「何事たりとも國家に反抗せず」是が第三。この三つがファツシヨ運動の三大精神であります。國民は國家の中に這入つてゐなければならぬ。所謂國際聯盟と云ふやうなことでも、外交上のことでも、總て國家と云ふもの、上から見てやらなければならぬ。國家と云ふものを條件としてやることでないと許さない。従つて國家に反抗すると云ふことは一切許さない。所謂國家至上主義であります。その國家至上主義を實行政します方法としては、先づ外に對する上から言つても、先づ第一に自分の内輪の力を充實させることに努めて居るのであり

ます。國は戦争によつて亡びずと云ふ意見であつて、どんな負け戦争をしても世界中から虐められでも國は残る、丸裸體になつても國家は残る。現にドイツは自滅しなかつた。外敵では國家は覆らない。國家を覆すものは國內的原因である。而してその原因をなすものは上下の懸隔の甚しくなることがその大きな原因である。だからそのためには第一に都會と地方との懸隔を緩和すること。第二には國民的懸隔を緩和して行かねばならぬ。是れ以外には國家の強くなる途はないと云ふので、今イタリアでは上下の懸隔を緩和すべく大膽なる労働政策をやつて居るのであります。この點は労働萬能のソビエトロシヤでも到底及ばないのである。都會と地方との緩和、是は農村振興策で、今イタリアでは政府が先頭に立つて農村振興の大運動を起して居ります。是はそこに原因してゐるのであります。是はイタリアの今の社會上、政治上に現れて居る二つの根本政策の一つになつて居るのであります。

夫れからもう一つはイタリアの教育の改革であります。今のイタリアは教育の基礎を固めなければ、社會運動も、政治上の運動も出来るものではない。所謂ファツシズム、ファツシヨ運動は一つの政治運動であります。この點に於て代議士の二十人や三十人、黒シャツを着て議會に這入つても決してファツシヨ運動ではありません。これは議員の或者が目的もなく、議會の廊下あたりを黒シ

ヤツを着て歩いて、これはフアツシヨ運動ではない。フアツシヨ運動といふのは國民的精神運動で、國民の全體に對し爺さん婆さん達にまでは是を得せしむる運動でなければフアツシヨ運動ではありませぬ。このフアツシヨ運動は精神運動であるが故に、是は教育を以て國民を育てなければならぬ。

伊太利精神を叩き込む

ムツソリーニの教育方針

伊太利の教育は日本の教育とは少し違ふのでありまして、ムツソリーニの教育の根本は、詰込教育はやらない。日本では教育と云へば詰込教育であります。八年の義務教育でも兒童を上級の學校へやる準備教育であると云つても宜い。また中學校や女學校に行つてもやはり上の學校に行く準備教育をして居るやうな觀があります。従つて何人でも詰込教育で、小學校でも四五年になるともう上級の學校に這入る準備教育をして居る。さうして漸く専門學校なり大學を卒業しても、學生時代に親から月に八十圓も百圓も學費を貰つて居つたものが、學校を卒業して見ると二十圓から三十圓の月給も中々貰へない。學校を出ても就職の出来る者は僅かである。

イタリーではそんな教育はしない。日本のやうな詰込主義の教育でなく、イタリーではイタリー精神を叩き込んで、實際に働く人を作る。かういふのがイタリーの教育であります。教育の實用化、かういふ點で私はイタリーの教育の痛快さを感じ一人であります。私は教員をやつて居つた關係から特にさういふ點に於て痛快味を感じるのであります。日本あたりの教育とは大變違ふ。イタリーの教育は人間を作るのだ。日本では修身と云ふ學科があつて、その外に品行とか操行と云ふやうな點數がある。かう云ふことは日本の文部省などがどう云ふ考へか少しも分らぬ。道徳と修身と品行と違ふ。口だけで言ふ修身は甲で品行は丙だとかいふやうなことになる。さうして修身、品行、圖畫、算術などを一緒にして、夫を割つて平均何點だと云ふやうなことを言ふ。假に科目が十五あると十五で割つて平均點數を出して甲とか乙とか丙とか云ふ。だから學問の方は乙でも人格の方は甲であるとか、學問は甲でも人格が丙であるとか、色々の者が出來て來るが、人格と云ふものはその人の正味のものでなくてはならぬ。胃病とか肺炎加答兒とか云ふやうな者が頭に氷嚢を載せての俄勉強でも學科の點數さへ取れば宜い。試験さへ通れば宜いと云ふものではない。人が一度習つたからと云つて一生忘れないと云ふものではない。無理をして一時的に詰込んで、さう覚えて居られるものではない。その教育によつて大きな精神的、信仰的、道徳的人格を作るのである。道徳

的倫理的ものは唯理論によつて教へられた場合、理論によつて覆へされる。倫理道德といふものは學者の抽象的、哲學的議論などによつてちよい／＼動くやうなものでは困る。さうして是は例へば爺さん婆さんでも、女子供でも直ぐ分るやうなものでないといかぬ。道德は大きくして簡單なものであると云ふことが必要で、學者などの理論で場合々々によつて動くやうなものではないかぬ。大きな道はちやんと極つて居るものでなくてはならぬ。

イタリーの教へ方の痛快に思ふのは、道德を信仰的信念として、道德倫理を超越してゐる點である。自分のお父さん、お母さんに孝行を盡せと云ふことも、理屈で以て両親には是々の世話になつたから、その報酬としてプラス、マイナスで孝行をせよと云ふのでなく、親なるが故に吾々は大切にしなければならぬと云ふのである。両親は假令乞食であつても、泥棒であつても、親なるが故に大切にしなければならぬ。恩になつたから、世話になつたから、その報酬として孝行をせよと言ふのではない。また何年間世話になつたからとか、民法の第何條によつて子は親を養ふ義務があるとか、そんな理屈ではない。親なるが故に大切にしなければならぬのである。権利や義務でやるのではない。親なるが故に大切にしなければならぬと云ふ信仰、信念によつてやる道德であります。是がイタリーの國民道德の眞髓をなして居るのであります。

その教育の大方針によつて、ムツソリーニが今日までやつて居るのは、上の學校に行つて御役人や學者になるのは百人の内一人位で、後の九十九人は汗を流して國家富強のために勤勞をやる人にする。勞働は非常に貴いものであると云ふ信念の下に、大部分は勞働者になるやうに育て、居るのであります。イタリーでは小學校を卒業しても上の學校へ行く者は極く僅かで、八年の義務教育を終つて上の學校に行く者もほんの僅かで、夫も中學校よりは農學校などに行く者の方が多く、學校を終ると直ぐ勤勞に従事するから、上の學校に行く者と云つても、日本のやうに試験地獄と云ふやうなことは少しもない。競争もなければ準備教育といふやうなものもない。入學試験といふものはありません。ありますが百人中一人位極くひどい者が撥ねられる位のものであります。競争も準備も要らない。また上の學校へさう澤山行く必要はない。上の學校へ行くべき素質のある者は人が遣つて呉れるのであります。さういふやうにイタリーの教育は實用化といふことになつて居ることは非常に痛快なこと、思ひます。日本あたりでも是はやるべきことではないかと思ふ。かう云ふ風にして國民精神の基礎を作り、その方針の下に設置せられた勞働保護政策と、農業政策とは、イタリーを進歩させて行く、今のイタリー政府の大事業とする項目なのであります。

ファシズムの定義 ファツシヨ運動の起因

このファツシズムと云ふことは、ファツシヨ運動といふことに就ては前に述べた通り日本では大分誤解があるやうであります。やはり銘々勝手なことを考へて居る。或る人はファツシヨ運動とは左の方へ行つた者を急に右の方に引戻す運動だと云ふ。さうかと思ふと或る人は労働者の爲に設置せられた資本家の監督をやる運動だと云ふ。或る人は黒シャツ代議士のことだと云ふ。また國家が産業を統制することだとか、産業振興のことだとか、銘々勝手なことを言つて居て、はつきりしてゐないから、はつきりした定義を日本の方々に與へて置くことが必要と考へます。

私の定義は是は先づ間違ひないものと信じて居ります。ファツシズムとは國民の歴史及傳統を基礎として現代に最も必要にして且つ適切な施設を施し以て國民精神を統一し且樹立する實行的運動だ。かう云ふ定義を下して居るのであります。國民の歴史及傳統を基礎としての仕事であり、國民性、國體を基礎としてやる仕事であるから、是はイタリーのファツシヨ運動、フランスのファツシヨ運動と、夫々國に依つて異なる歴史、國體、國民性を基礎としてやるのであるから、國によつて

自から異なるものである。併し乍らこのファツシヨ運動といふのは、宮内省あたりの人の考へるやうな徴の生へた國家主義とは一寸同じやうではあるが違ふのであります。夫は何處が違ふかといふと、現代に最も必要且つ適切な施設を施すと云ふ所が違ふので、日本の此頃の國家主義として松岡全權はムツソリーニに向つて神ながらの道、皇道を説かれたことは結構である、三種の神器を説かれたことも結構である。そう云ふことも必要であるが、夫と同時にその道の貴い精神を以て、更に今の眼の前の大きな問題を國家がやつて行くと云ふ、そこが徴の生へた國家主義とは違ふのであります。團體的精神運動であつて、單なる社會運動ではない。現在に適切な施設を以て國民精神を統一する、舉國一致の實行運動である、是から研究しやうとか、議論するとかそんなことを言つてぐづぐづして居られる問題ではない、舉國一致で以て國民精神を統一し且つ眞面目に國家百年の大方針を樹立して是を今の問題として實行することが必要なのであります。左が宜いとか、右が宜いとか、マルキシズムは、一九三三年のモードだとか、ファツシズムは今年の流行であるとか、そんな浮調子なものではない。ファシズムは國民精神を統一し且つ樹立する實行的の運動である。學者などがぐづぐづ考へて居るやうなものでない。議論でなく實行的運動であります。是で略ファツシヨ運動とはどんなものであるかと云ふことを一通り申上げたこと、思ふ。

ファツシヨ運動の起りましたのは一九一四年、即ち大正三年であります。世界大戦の始つた當時ムツソリーニは未來派の詩人であつた彼と行動を共にした文士、藝術家は、吾々は情熱によつて生きる者である、文學者、藝術家といふ者は感激に富むところの者でこの點に於ては如何なる人々にも勝れて居る者であるに拘らず、今や國家は實に重大なる危機に頻して居る。是に對して先づ先頭に立つて、この國難に直面する者は、感激と情熱とを生命とする吾々文學者、藝術家より外にはない、と云ふので、是等の文士、藝術家の志願兵が第一線に立つたのであります。當時六十四歳の豫備でも後備でもない、兵役には何等關係のない老詩人ダヌンチオまで第一線に立つて國家を護つたのであります。

そうして砲火の盛んなる塹壕の中で未來派の日記も書いたので、現在ファツシヨ運動の中堅となつて居る者はその當時からの文士、藝術家出の者が大部分であります。吾々は日本の文士、藝術家を顧みて實に物淋しい感じを懐かざるを得ないのであります。非常時日本と云ふ一大時期に際して、アメリカの大統領と石井全權の會合が有望視されて株が上つたとか、支那の方の鐵砲の音が熄んだとか、そう云ふことを以て、日本の非常事が濟んだと云ふやうに考へて安心したら大變である。日本の非常時は是からである。東洋に於ける日本の大芝居は是から始るのである。大切な事柄は是か

ら始るのであります。非常時日本が常時に決して歸つたのではない。本當の非常時日本は是から始らなければならぬ。日本國民の大運動は是から始るのである。私は日本の文士、藝術家に是が行へやうとは思はない。感激を生命とし、情熱を生命とするところの文士藝術家ありとするも、夫等とは思ひ掛けない原稿料か印税でも這入つたら、それを懐にして銀座あたりのカフェーに出て行つて、ニヤ／＼笑ひながら酒でも飲んで、君子だとか、松子だとか、櫻子はとか言つて騒いで居る位の所が、今日の非常時日本の文士藝術家の状態であります。

三十九歳の總理と

赤き血に燃ゆる國家主義青年

併しイタリーにファツシヨ運動が大正三年に始つて以來、イタリーはかの世界大戦から四ヶ年間、イギリスやフランスに引摺られて參戦したが、當時はドイツは既に破竹の勢を以てフランスに肉迫しパリも既に危いやうな時にあつて、英佛が一緒になつて、イタリーに對しお前の方はオーストリーとハンガリーに對しロシヤと一緒になつて、ほんの仲間になつて居つて貰へば宜い、そんなに難しいことでないからと云ふ約束で參戦したのであります。ところが愈々戦争になるとイタ

リーの苦戦は實に非常なものであつた。フランスの戦線の三倍、四倍に當る戦線を持ち、兵隊は非常に少く實に苦戦を致したのであります。殊に自分の味方であるべき筈のロシアは途中にして敵と變つたので、この始めは英佛から簡単なやうに言ふて約束した参戦が一番の苦戦になつた。そうして愈々平和會議になると、戦争の終り頃ちよつと顔を出して一番樂をしてゐたアメリカのウエルソンが一番上に座つて一番働いたイタリーなどは隅の方に小さくなつておらなければならぬやうな状態でありました。そうしてウエルソンは自ら十六條を書いて日本の主張に一人反對した。またヒウメの問題についてもイタリーの主張に反對したのはウエルソン一人であつたのであります。

そうして世界大戦の終つたのは大正八年の暮であります。この翌年の三月十九日が、ミラノに於て御承知の通りムツソリーニのファツショ運動の起つた日となつて居ります。大戦前、大戦後の今日の國情の憂ふべきことに鑑み、國の立直しをなし、國難を救ふことを吾々の力でやらうと決心したのが三月十九日であります。初めて今日のファツショ運動の起つた日であります。始めは百人ばかりで仕事を始めたので、人數はそう澤山ではありませぬ、ヒウメを取る時も千人位であつた。もう世界各國の代表が調印して仕舞つたものをたつた千人の青年が奮起した爲に、世界列強の調印した條約が一枚の反古となつて仕舞つた。そのファツショ運動も初めはたつた百人ばかりの人であ

つた。さうして大正八年から始つたこの運動が大正十一年には完成した。イタリーの國民精神を統一して、當時三十九歳のムツソリーニが總理大臣になつたのであります。

戦争が濟んでイタリーの思想の險惡なる時に、是に乗じた共產主義者は愈々跋扈し、今一つは此イタリーに於ける共產主義の跋扈に對しフランスがこの運動を非常に助けたといことである。イタリーの共產主義がストライキなどに對しても、機關銃まで備へて居つて工場などを占領し、横暴を極めた日取と平和會議の日取と對照して見ると、それが直ぐ分る。何時も平和會議に於てイタリーに關係する重大問題が掛けられやうとする四五日前後には必ずイタリーに於て大きな労働爭議が勃發して居ります。その軍用金はフランスから出て居る。イタリーのゼナカン、ヂリエツチ、フランヤンなど、到る處で共產黨は横暴を極めて居るので、その時は必ずイタリー政府の腰の弱い時であります。さう云ふやうなことからどうしても共產主義と國家主義の青年とが對立するやうになつた。何處の國でも平和主義者とか國際主義者とか、共產主義者とか云ふものが國にこたゝのする時は活躍する。日本でもそんなものが動いたこともある、さうして軍國主義者は奴隸のやうに云はれイタリーの國家のために四年間戦争をして凱旋した軍人などでも、自分の家に歸るのに二つも前の停車場で汽車を降りて、夜密かに自分の家に歸ると云ふやうな有様であつた。國家のために四年間

身を犠牲にして働いた軍人が、殆ど監獄からでも家に歸つたやうな見すばらしい状態で歸つた。殊にイタリアは戦線も長く、戦闘員も缺乏して、大正七年には遂に十八歳の青年まで招集して中等學校を出た者は一ヶ月の教練で第一線に立たせたのであります。然るに何事ぞ、その従軍者に對して奴隸扱ひをするとは實に不届き至極である。イタリアをそこに至らしめたのは實に共產主義者の策動である。そこで愈々止むに熄まれずして、イタリアの青年は起つたのである。それが三月十九日ミラノに起つたムツソリーニの愛國運動で、それが今日のファツショ運動であります。

さうして初めの正面衝突は實行運動である。是はちよつと今迄の國民黨の遺方とは違ふ。日本あたりでも河野廣中とか島田三郎、さう云ふ人達の國民黨がありました。夫で共產主義者は機關銃、爆彈を使用して工場を占領し、場合によつては労働者を煽動して彼等は機關銃等を射つて工場を占領し、仕事を出来なくしてしまふ。さうして資本家の手から自分等の手に移して占領して仕舞ふ。さうすると直ぐに日々の食ふことに困る。労働者は路頭に迷つて、そこで共產主義者は實行手段に入ります。ファシスターの方は共產黨のやうに亂暴はしない。齒には齒、眼には眼を報ゆると云ふのである。若し向ふで自分の二つの眼を潰したら、彼の二つの眼も潰してやる。若し向ふで自分の齒を折るならば、吾も亦向ふの三十二枚の齒を悉く折つてやらう。それで兩者の對抗によつて到る

處に莫大の数の労働者に比べて少数の青年團體は、全體で一才二千人ばかりの犠牲者を出して居ります。この少数の青年により莫大な数の狂ひ立つてゐる労働者は戦ふ毎に必ず負けて居ります。少数の青年の方は何時も勝つて、負けたことはない。

その理由は始めての青年團體は軍隊組織でありました、分隊、小隊、中隊と云ふやうになつて居つたが研究に研究を積んで今日は有名な組織になつて居ります、新たに此處に這入つて来る者は中尉の大學教授でも上等である、さうして進むにも退くにも一々號令で極めて組織的である、夫を共產主義者の方はまるで烏合の衆であります。

それから第二には青年團體の方は皆實戰の體驗があります、十八歳の青年まで二三年も戦争に出て働いたので、例へば爆彈が飛んでも顔色一つ變へるやうなことはない。さう云ふことが共產主義とは大變異つて居る。いま一つは精神に於て非常に異つて居る。共產主義者は社會政策と云つても自分のパンを求めするためにやるのであるが、青年團體の方はイタリアの國家の建直しをしやうと云ふのであるから、そこは大變違ふ。青年達は今日のイタリアを建直す者は吾等青年を措いて外にない。過去に於て吾々は大戦中に命を抛棄して塹壕に這入つて、國家のために身命を惜まず闘つたのである。その意氣を以て共產主義者と闘つたのであるから、到る處に於て共產主義者は破れました。夫は青

年は極めて大きく且つ太陽の如き情熱を以て國民に訴へ、成程そうだお互同士の間に喧嘩をして居つても、同士間の富を亡して、自分達の生活の樂になる筈はない、益々イタリーの物資は缺乏して行くばかりだ、是ではいかぬといふことに氣付き、労働者も段々にムツソリーニの運動に加はつて来るやうになつたのであります。共産主義者はムツソリーニの運動が始つた時にあの運動は資本家の手先となつて労働者を虐めるのだと云つて労働者を騙して居つたが、夫が嘘だと云ふことが段々分つて來た。ファツショ運動の金は資本家からも政府からも一文も出て居らない。總べて自分達同士の會費だけでやつて居ると云ふことが分つて來た。陸軍省からも、内務省からも、資本家からも一文も寄附金も補助金も貰つてゐない。總て會費だけで經費を賄つて居つたのであります。これがファツショ運動の強味であります。若し三井とか三菱のやうなところから寄附金を貰つて居つたらイタリー國民の精神を統一することは出來た、そうして共産主義者、社會主義者は、イタリーの國內に於ては何等の仕事も出來なくなつた。諸會合も、機關新聞も雑誌もなく、何事も出來ないまでに完全に抑へつけられました。

ローマを包圍せる

十萬のファシスター

併し議會では政府が五百四十名の議員中百五十五人を社會主義者、共産主義者が固めて居る。十四の政黨の中で一番右の方がムツソリーニ派の六名で、議會に於てはたつた六名であるが此黨派が國民精神を完全に統一して、そうしてムツソリーニは時の政府に要求をしたが、最後の通牒で政府は之を拒んだ。この時の總理大臣であるファクターは議會では何時も「どうか夫は考へて置きませう」と云ふ、何時もどうかと云ふのが手であつた。このムツソリーニの要求に對し最後の通牒で拒んだ。此結果大正十一年の十月二十八日は全國のファシスターがローマに集まる者十萬人と言ふた。郵便局、停車場を通信機關として十萬のファシスターがローマの廻りを取捲いた。そうしてローマの廻りの山を南東に取捲き十萬の青年が篝火を焚いて居るので、この光景は大したものであつた。是に周章てたファクター内閣では直に戒嚴令を布いた。三人以上一緒に歩いてはいかんとか夜は八時より後に外に出てはいけなとか、厳しい戒嚴令を布いた。この戒嚴令は二十九日の朝で、二十九日の朝夜が明けるとばつと兵隊が出た。機關銃に彈をこめて大通りには右と左に二列に

なつて、交通監督をして居る。そうして暫らくすると兵隊が機關銃をひいて皆歸つて行く。おや戒嚴令が流産したのかと思つて居ると、一時出た兵隊が皆兵營へ歸つて仕舞つた。それはどうしたのかと云ふと、總理大臣が國王陛下に謁見を求め、戒嚴令を布くことの御裁可を仰いだ、この國王は何んでも宜しいと聞く陛下だが、此時だけは諾かれなかつた、今イタリーは青年は身命を君國に捧げて國家復興に盡して居るので別に戒嚴令の必要は認めないと云ふ仰せであつた。そこでフアクター首相は是はもう閣議で決定して居ります。若し陛下が御許しがなければ憲法の上から言つて或は王位を云々するやうなことがあるかも知れませぬと申上げると、陛下は宜しい國家興隆のために自分が王位を退かなければならぬやうな場合になつたら、自分は喜んで國家のために王位を退かうと仰せられたので夜明を待つて出した兵隊を又引返させなければならなくなつたのである。僅か數時間での戒嚴令は流産してしまひ、次でフアクター内閣は總辭職となり、後繼内閣の組織について、一々元老を陛下が御召になつて意見を聽かれたが、多くの者は今日のイタリーはムツソリーニを措いて他に適當な候補者はありませんまいと言つた。併し中にはあれはまだ四十歳にもたらない若さであつて、學歴も尋常四年を修業して居るだけで、法學士でもなく、また平大臣をやつたこともなく、次官をやつたこともない。夫を總理大臣にすると云ふことはどうかと云ふ者もあつた。結局

他に人がない。それでとう／＼ムツソリーニを召されて内閣組織の大命を降した。それは十月三十日で當時三十九歳で内閣を組織することになつたのであります。閣僚には七十一歳のオールランドを初めに二十八歳から三十歳位の者が三人もあつた。若い者は精神も大きく實行力にも富んでゐるので非常なる活躍をした。日本などは年寄があまり威張つて、若い者が黙つて居る。お爺さんが大きな顔をして「おい、出勤簿の判の押方が曲つて居るよ」なんて言つて居る。年寄は相談役で宜い。それで若い者にうんと働かせるが宜い、年寄は相談役として見て居れば宜い、イタリーは少壯銳の閣員によつて息を吹き返して、全く面目一新のためにムツソリーニを始めとして働くことが出来たのである。斯の如くにしてローマの廻りの大砲も取り退けられ、鐵條網も取り退けられ、二十四時間内にローマの四マイル以内は全部取り除かれてしまつた。是れが十月二十八日から三十日に亘る三日間の出來事で、血を流さずして維新が出来た。是をイタリーでは白色の革命と言つて居るのであります。

大臣も代議士も

職業組合代表から選出

その後の各種の仕事といふものは、是は實に痛快だと思ひます。その縦の計畫は労働政策で、横の計畫は農業政策であります。縦の計畫はイタリアの組合組織であります。銘々は何かの職業組合に這入つて、職業組合を作り組合の價値を認め私の個々の價値を認めない。そうしてこの人は國家に何を以て貢献しつゝあるかといふことによつて其人の價値を認める、組合に特權を與へて個々に特權を與へないのである。この組合は銘々に小さい職業組合を作ります。靴屋とか、帽子屋とか、洋服屋とか云ふものが各々小さい組合を作ります。そう云ふものが更に集つて被服商聯盟と云ふものを作ります。それから八百屋とか、肉屋とか、魚屋とか、そういふ小さい銘々の組合が集つて食料品商聯盟といふものを作ります。その聯盟と云ふものが全部集つて總聯盟となつて居る。總聯盟は六つで、前に申した二つと、それから工業總聯盟、農業總聯盟、商業總聯盟、それから空中輸送とか海上運輸業とか、陸上、湖水、池、そう云ふ運輸業の聯盟の六つになつて居ります。それでイタリアに於ては第一番に國家の法律を以て待遇法を定めてある職業に對しては組合を作ること許

さない。そういふものは組合を作る認可は取れません。従つて小學校の教員が組合を作ることが出來ないと同様に、國有鐵道の従業員とか、郵便電信の方の従業員も労働組合を作ること出來ません。日本には遯友會とか云ふものが出來たそうだが、イタリアではそういふことは出來ないのであります。

第二にイタリアでは一つの場所には一つの職業に對して只一つの組合より作れない、一つの場所に三つも四つも組合があると労働條件などを極めるに困るばかりでなく、色々の不便があるので、一つの場所に一つしか組合の存在を許さない、だから自由競争はありませぬ。但しこの組合が出來て居ると、此組合に這入つて居る者でも、這入らない者でも總てこの職業組合が權利を代表する、例へば百人鐵工所に職工があるとして、この内四十名が組合員になつて、後の六十名が組合に這入つて居らないでも、その六十名の全部の權利を組合が代表することになつて居ります。そうして組合の團體契約とか、資本家との契約とか、最低賃銀とか、病氣手当とか、そういふものは全部組合に這入つてゐない六十名の者に對しても適用されるので、その職業に従事して居る者全部を組合が代表することになつて居ります。今一つは組合に這入るにはその職業に自ら従事して仕事をして居る者でないと組合員になることは出來ないことになつて居ることは痛快です。

イタリアでは職工組合とか小作人組合とか、色々の組合の幹部から代表を議會に送ることになつて居る、印刷業とか鐵工業とか云ふものから二人宛送ります。資本家側から二名、職工側から二人と云ふことになつて居り、職工側と云ふのは自ら活字を拾い、自ら輪轉機を動して居る労働者でないといけないことになつて居ります。日本あたりにこの法律を適用したら一寸妙なものになりません。早稲田あたり的大山郁夫とか云ふ労働代表があります、あれなども大學の先生で、もとより何處かの工場の職工を勤めたこともなければ、労働者でもない、鈴木文治と云ふやうな人も労働者の代表だと云つても職工や労働者をやつたと云ふことも聞かない。何んでも法學士だとか云ふことである、おかしなものである。ところがイタリアは實際職業に従事して居る者でない代表者にはなれない、イタリアでは資本と労働とを全く同じにして居るので両方から何等の壓迫も加へない、資本と労働とは一つの産業に對しては共同の二つの力であるから、優劣を與へないと云ふことになつて居る。だから資本家から百圓出す時は労働者側からも百圓出す、その代り代表員も資本家から三人出す時は労働者からも三人出すと云ふことになつてゐる。金を出す場合は資本家は百人で百圓出す、労働者の方は三萬人で百圓出す、代表も一方は百人から三人出す、一方は三萬人から三人出す、決して頭数は認めない、生産に従事する二つの力として見る、そうして總聯盟のその上に組合

大臣、労働大臣を出す。イタリアの産業は見透しが利く、各々その商賣の實情が何んでも直ぐ解るのであります。

組合の資本家と労働者の區別は資本家と云ふのは労働を與へる人で、労働者と云ふのは労働をする者と云ふことになつてゐるから、横町の小さい靴直しのお爺でも獨立して商賣をしてゐる者であると、明日から小僧を一人置く労働を與へる資本家である。

それから事業を經營してゐる人と労働してゐる者と、両方から五人宛の代表を出して一緒にになり、それに政府の役人が一人這入つて勞資協調會と云ふものが成立つて居る。是は餘所のフランスとか、スイツルとか、ベルギーなどの協調會とは違ひます。是れは國家の機關であります、警察とか、村役場とか云ふ者と同じで皆官吏であります。それでイタリアは國産品獎勵と云つても徹底的の遺方をしてゐる。相當に政府が補助をして國産品を皆使はせる、若し外國品を使ふ時はその理由を申出て許しを得なければならぬ。是々の短所があつて國産品は使へないから、かう云ふ長所のある外國品を使ひたいと云ふ詳しい理由書を出す。そうすると政府ではその方の職業の勞資協調會に對し國産品の改善を命令して研究させる。そうして外國品に値段に於ても、品質に於ても、劣らぬやうな製品にまで改善させる、是れは資本家と労働者と五人宛それに政府の役人一人とで成立つ

てゐる勞資協調會であるから、研究には非常に都合が宜い。かう云ふ缺點をかうするには、かう云ふ設備を資本家の方でして呉れとか、或はかう云ふ點は職工の技術によつて改善して呉れとか、互にそういう風にして研究して行くと、外國品に劣らぬ物が出来るやうに自然となつて来る。かういふ遣方でイタリーはドイツの機械類などもどしどし驅逐して、悉くイタリーの機械を使ふやうになつてゐる。船舶でも重油機關のデーゼルエンジンでも、鐵道用品でも皆イタリーの物を使ふやうにしてゐる。それで茲に石炭がないと云ふて、それなら重油を使へと云つて、直に造船協會の勞資協調會に研究を命じて改善させる。イタリーでは五萬トン以上の重油機關で二十二ノットの船が出来るやうになつてゐる。是等もやはり勞資協調會の賜物である。今ヨーロッパ、アメリカを通じて一番早いのはイタリーのデーゼルエンジンの船である。従つて最低賃銀でも、病氣手當のやうなことも、總て團體契約で資本家の代表と勞働者の代表とで契約することになつてゐる。それで一方から云ふと色々に物價や生活費の程度の違ふところでは必ずしも一致しない。例へば東京の平均生活費と、高知縣、宮崎縣、青森、北海道と云ふ、地方の方の平均生活費は違ふので、是れは最低賃銀と云ふものだけ定めて置いて、其運用は生活事情によつて適當にやることになつて居る。次に勞働時間についても、唯一日八時間と云ふやうには極つて居らぬ。一週何時間と云ふことになつてゐる。

一週四十八時間でありますから、一日十時間やれば土曜日も休んでも宜い、雇主と雇人との間の妥協によつてどう云ふ風にしても宜い、結局一週に四十八時間になれば宜い。そういう賃銀とか勞働時間とか云ふやうなことを極めるには、總べて勞資協調會の手を経なければならぬ。個人が勝手には出来ない、是を若し勝手にやるとその雇傭契約は無効になつて處罰されます。

失業者は皆その郷里の市町村役場に送り歸して就職させることになつて居ります。東京のやうな都會に出て來て失業すると、お前は岡山縣か。お前は三重縣かと云ふやうに一々失業者の郷里を聞いては、その郷里の市町村役場へ送り歸して市町村役場で就職させる。その汽車賃などは只で切符を與へることになつて居る。そうして人口の都會集中を防いでゐる、イタリーは都會と地方の人口は非常に平均してゐる。日本などのやうに都會にばかり人が多といふやうなことはない。斯くの如くして勞資協調會はイタリーの産業改革に非常なる大きな仕事をやつて居ります、殊に農村に於て目覺ましい仕事をやつて居ります。

労働裁判制度と

徹底せる労働政策

三〇

イタリアには労働裁判といふものがあります。イタリアでは不平があつても個人と個人では喧嘩をすることは出来ないことになつてゐる。組合に訴へて行く、そうすると組合と組合との代表の労働協調會が判決を與へるので、それに對し何方か不平である場合に、初めて今度は労働裁判といふものになります。是はイタリアだけの持つてゐる制度で、裁判長は陪審員に其職業の經營者と雇人の兩代表者、原告、被告、場合により鑑定人の意見も徴して判決を言ひ渡すので、それに何方か不平のあつたときは上の裁判所に訴訟致します。是もやはり訟訴院、大審院とあつて、大審院の判決があればそれには絶対服従しなければならぬ。この労働裁判で痛快なことは資本家からも、労働者側からも、誰からも起訴しないでも検事が或る労働條件に不當のことがあれば告發する権限を持つて居ります。資本家でも労働者でも或る不當なことをやつてゐることを見附けたら誰も訴へて来ないでも検事が起訴する。そう云ふやうにやつてゐるので、ムツソリーニが政權を握つてよりイタリアには労働爭議といふものが全然なくなつた。それはこの労働協調會と労働裁判があるからであ

ります。操業短縮とか、賃銀問題とか、待遇問題とかそう云ふやうなことも皆労働協調會で代表者が極めるのである。そうしてこの労働裁判でも、労働協調會でも問題を論議する時には、先づ一番先きにどういふことを研究するかと云ふと、その問題自身がイタリアの國家の産業の上から見てどういふことになるかといふことを第一に極めて、その後でなければ細目に這入らない、第一に國家の生産といふことから考へて、それから枝葉の問題に這入るので、枝葉の問題のためにその根本である國家の産業に悪影響を及ぼすやうなことはしない、此點は非常に痛快なこと、思ひます。

労働者教育、労働者の指導方法と云ふことについて次に申上げて置きたいと思ひます。イタリアで特に骨を折つて居る事の一つはまた農業政策もその一つであります、日本でも今農村政策として自力更生とか云ふやうな事が言はれて居るやうだが、あんな馬鹿氣たことで農村が更生しやうとは思へない。百姓が自分の力で更生出来る位なら何も文句はない、更生する力が自分がないから喧しく言つてゐるのである。日本の御役人は待合に行つたり、酒を飲んだりしてニヤ／＼笑つて居つて百姓に自力更生をしないなと云つても、その政府自身が自力更生が出来ない。これで以て農村の人にばかり自力更生しろなと言つても駄目な話である。イタリアのは同じ労働政策と云つても農村政策と云つても、ロシアあたりのとは違つて、著しく人情味があります。イタリアでは無闇と金

錢を以て労働者の不幸を救ひ出すといふやうなことは避けたいと云つて居り、それよりも精神方面を指導する運動が眼目であります。今迄労働者の救済といふことは、經濟學者が議論をして、金錢問題、物質問題だけで解決して行きました、イタリアのファシズムは今日現に困つてゐる労働者に金錢を與へると云ふことでなく、それよりも更により以上の根本的の心を與へることが必要である。只一時の物質的救済でなく、永久に幸福になつて行くやうな途を開いてやるといふことを主眼として居ります。従つてイタリアの労働者には汽車も二等三等に限り全國五割引の恩典があります。總ての興業物も、オペラとか、芝居とか、活動寫眞、展覽會、博覽會、曲馬、そつといふものも五割引の恩典があります。病氣でも無料で治療に行けます。唯外科で何か特別の手術などをする場合だけ多少の料金を取ります。毎日の日用品なども二割以上四割引になつて居ります。金なども労働者は利率が宜い、労働者に對する強制保険もイタリアは世界中で一番であります。傷害保険、農業と工業の二通りあります。老衰保険、失業保険と云ふものもあります。フランスなどでは七八年前から議論ばかりして今に實行の出來ない結核保険をイタリアではすつと前からやつて居ります。結核保険の如きは被保險者及其の家族の全部が恩典に浴します、また職業保険と云ふものもあります。自分が使つてゐる材料などのために病氣を起したと云ふ。そつといふ職業から來た強制保険もあ

ります。一般的の疾病保険も無論あります、その外女の労働についての強制保険もあります。そつといふ保険は皆政村でやつて居るので、極めて簡単に自由に行はれると云ふことがその特徴であります。それ以外労働者の爲めに徴兵保険、生命保険、火災保険と云ふやうなものは營利會社の保険に這入りますと、保険掛金は三分の二であります。人が三圓掛ける所なら二圓掛ければよい、それで保険金を取る時は普通人と同じに貰へます。

そつといふやうに色々の點に於て待遇方法が設けてあるので現金を貰はなくても決して生活には困らない、そつとして紹介所は地方でも何處にもあるので就職にも困らない。また全國に皆清らかな娯樂場があり、また極めて簡単な職業教育もやつてゐる、これは二ヶ月位から六ヶ月位で、例へば無線電話の二ヶ月講習とか、發動機修繕の三ヶ月講習とか、それが終ると職工になれます、そつ云ふ風に色々の恩典が設けてあつて生活に困らないやうになつてゐる。それから労働者で何か功勞のあつた者には勞働勳章を與へる事になつてゐる。また何か著しい功勞のあつた者は一代限りの勞働貴族になれます、何かの發明をしたとか、何か特に貢獻のあつた者に對しては勞働勳章、一代勞働貴族の恩典があります。また勞働の種類によつては組合も多く、人數も多く、これから代表者を出して、その代表者を衆議院に送ります。議會を組織してゐる團體で一番多いのは、何んと言つても農

業で、イタリアは農村本位を國是としてゐる。議會の五百四十名に對しまして、農業方面の組合の労働者側から約五十人、雇主から約五十人で、これが一番大きな團體であります。この各組合の各代議士は政府若くは最高評議會、樞密院にも出て、銘々自分の組合の立場から修正を加へて行くのです。此議案については醫者の組合からかう云ふ個條を添へて貰はなければならぬ、鑛山業をやつてゐる資本家側からは、かう云ふ問題については是は削除して貰はなければならぬとか、銘々が注文を出して修正をして意見を纏めますから、議會などは非常に圓滿に行つて居ります。曾て日本の代議士が四五人イタリアに來た時議會を傍聴に一緒に行つた。その時に日本の代議士は異口同音に言つた「あまりおとなし過ぎて議會のやうな氣がしない」と評して居つた、日本の代議士は議會と云へば罵詈雑言でも飛ばないと議會と思はないらしいが、イタリアではそんな議會はない。貴族院も日本と殆ど同じで華族とか、多額納税者、勅選などによつて構成されて居ります。イタリアの議會は民衆作家とか、役者まで這入つて居ります、詳しいことを申上げる時間がないので、ほんの組織だけを申上げて置きます。

統制ある失業救済

産婦と乳幼兒の保護

イタリアの農業政策のことを簡単に申上げます。イタリアの農業政策は先程申上げましたやうに徹底的の方法でやつて居ります。この農業政策を執ります理由は、都會と地方との懸隔を緩和するのが第一であります。第十九世紀に勃興した人口都會集中の恐ろしい傾向を作り、農村の疲弊は日に増し著しくなり、都會は益々大きくなつて來た。日本などでも大東京となつて世界第二の都會が出來たとか云つて喜んで居るが、東京なども人口が何百萬になつたか知らぬが、少ない方が却て宜い。イタリアなどでもこの都會集中の弊を頻りと緩和しやうとして居るのであります。農業政策を執ります今一つの理由はムツソリーニは思ひ切つた産兒奨勵をしてゐる。イタリアは今四千二百萬の人口があるが、イタリアと云ふ國は山が多く平地が少ないから人口過剰であるといふ議論もあつて、七八年前から産兒制限を斷行する必要があるといふことを稱へられて居りました。その際ムツソリーニは堂々と論じ、既に三十年前にイタリアの人口は僅に千七百萬人であつた時に於てすら、時の經濟學者、社會學者はイタリアの人口は過剰である、山が多く、平地の少い國であつて、斯く

如く多数の人口があつては人口過剰である。何んとかして産児制限をしなければならぬと盛んに論じて居つた。それが現在は四千二百萬になつて居る。それでもイタリアは電車もあれば瓦斯もあり、乗合自動車もある。皆潤いのある生活をしてゐる。經濟學者などが閑に任せて机の上で割出す人口問題などは當にならぬ。興隆して行く國は必ず人口も増殖して行く、唯都會にばかり集中するのはいけない。日本でも人口過剰だと云ふので、産児制限を市役所でやつて、藥や道具による避妊の遺方を市役所が教へなければならぬやうな状態になつて問題になつたと云ふことを聞いて居る。日本などもそんなことをしなくてもまだ土地は幾らもある。那須野ヶ原だけでも何十萬町歩とある、東北地方へ行つても、北海道へ行つても、まだ未開墾の土地は幾らもある。樺太へ行つても滿洲へ行つても、日本の人口過剰などは問題でない。イタリアでも三十年前の千七百萬人の時でも今日の四千二百萬人の時でも、さう變りはない。けれどもイタリアでは今後の益々人口増殖に對し色々の施設もやつて居る、従つて一方では産婦や乳幼児の保護を盛んにやつて、人口の増殖を圖つて居るのであります。イタリアでは御産は只で出来るのであります。全國到る處に産科病院があり、御産前一週間、産後の日立の世話をする。専門の産科醫、看護婦、それから、産婆が皆居つて御産の世話を只でして呉れる。是は政府のやる國家機關で無料である。又無料食堂があつて晝も晩も只

で食はせる、産れた子供に對しても健康診断から、色々の病氣の手當も致し、榮養品であるコンデンスミルクなども只で呉れます。それから女労働者である、妊婦産婦は出産前一ヶ月、出産後一ヶ月は働かせることは出来ない法律になつて居る、給金は雇主は普通に拂はなければならぬ、夫から女労働者御産保険は自分の掛けた保険と等しい金額を政府から呉れる、保険が百五十圓であると、政府から出産祝として百五十圓呉れるから、三百圓貰へる、また職業組合からも貰へるから、子供を産むといふことは金儲けである。

夫から失業者の就職の世話は勞資協調會でやつて居るが、この就職の順序といふものは法律で極めて居ります、一番先きに廢兵是が第一、第二には在郷軍人、第三には以外の者と云ふことになつて居ります、國家のために犠牲になつた廢兵と云ふ者を一番先きに就職させる、此點は日本などは大變違ふ、日本は學校の先生などにならうとしても大抵は兵役に關係のない者を先きに採る、兵役に關係のある者は時々呼出されるので面倒だから、先づさう云ふ面倒な者は後廻しにすると云ふのが普通である、それで學校の先生は子供に向つて忠君愛國を説いて居る、嘘ばかり言つてゐる、さうして君國の爲に犠牲になつた廢兵は何處にも就職することが出來ず、化粧品を押賣をして乞食をして廻らなければならぬ、夫で學校で忠君愛國なんと云つても實におかしなものである、日本

でも職業紹介には廢兵、在郷軍人を第一に採るやうに法律で極めることが宜い。

夫から、廢兵、在郷軍人以外の者に對してもやはり順序が定つて居ります、第一は夫婦にして子ある者、その次は夫婦者、その次が獨身者と云ふ順序になるので、是も法律で定つて居りますので動かすことは出来ない、斯の如くにして子供を保護するので、イタリアの子福者は殆ど總べて税金は免除されます、是を子福者の免税と云つて居ります、一夫婦で十一人以上子を産んだ者、是は皆死んで仕舞つて居ても宜い、とにかく一夫婦で十一人以上子を産めば、その子供は死んで居つても生きて居ても、過去の勤勞により、また現在五人以上の子供を育て、居る者を子福者と云ふ、是は五人以上と云つても必ずしも自分の子でなくても宜い、自分の身内の者が子供を置いて両親が死んだので、自分の所へ引取つて養育してゐる、さう云ふ子供でも何んでも宜い、現在に五人以上の子供を育て、居る者は子福者と云つて鐵道省の汽車も只、電車も乗合自動車も只、職業に就くにも一般の内では一番始めに就職をさせて貰へる。

また子供の出生、産兒獎勵をやります。その目的のためには都會よりも地方の方が宜い、農村の方が出生が多い。イタリアでは各府縣では自分の縣内の結婚數出生率を毎月末に統計を取ります、さうして子供を産む競争をやつて居ります、さうして一番成績の宜い所には銀のカップを與へ、賞

金が三萬四萬と出ますので各町村では一年間の統計を取つて出生數を頻りと調べて居ります、併し只生れるだけ産れても死んで仕舞つてはいけない、死亡と出生と成績の一番宜い町村で賞金を取る。だから各市町村では市町村内の子福者には住宅を建設してやつたりして獎勵して居ります、小さい村でも七八軒位は住宅を建て、貰つて居る子福者があります。

農村振興政策と

耕作の機械化、增收の指導

また農村の振興のために、農村振興政策を以て國是とすることを國民に約束した政府は、農業に従事する者も商工業に従事する者より収益の劣らないやうにするために色々の施設をして居ります。第二には農村に對しても充分な娛樂機關を與へる、何んにも娛樂機關がないと、遂都會に浮かれてフラ／＼と出て來ますから、充分に農村にも娛樂機關を與へなければ農業の振興も出來ない、それから第一の手段としては農業の合理化であります、その第一の手段としては單獨農業を避けて、なるべく團體農業をやらせる方針になつてをります、それには農民が自分で大根を作つて自分で大根を賣りに出るやうなことではいかぬ、どうしても團體農業にする必要がある、農業も商工

業のやうに大組織によつて團體で仕事をして行く、一軒々々で別々にやつて居つたのでは大農業は出来ない、また儲も非常に少い、それを一つの團體となつてやれば、例へば肥料を置くにしても、牛馬の繋場にしても、みな共同でやつて行けるから費用が掛からない、また生産物を賣るにしても、一定の時間に組合のトラックが廻つて来るから、一定の場所に品物と傳票を付けて出して置けば、組合の方で町に出して賣つて呉れる、是は野菜でも果物でも、牛乳でも、卵でも皆さういふ風になつて居るので、百姓は作りさへすれば宜い、組合の方で金にして呉れる、此方が非常に自分でやるより収益も多くて簡単である、牛乳などでも皆組合の手で直接需要者に賣るのであるから利益の多いことは當然である、また葡萄のやうなものでも、そのまゝ賣らずに葡萄酒に作つてビンに詰めて賣るから利益は多い、その方が個人々々でやるより何の手数がなくて収益が多い、安心して働けるのであります。資本も要らないで農民は非常に樂である。

農業振興の一つとして、機械農業の應用を非常に奨励して居ります、ムツソリーニはイタリーの農業が段々に疲弊して行くので、是を機械農業によつて耕作法の改良を企て、機械の力によつて何尺と云ふやうに深く掘返して深い所まで空氣や肥料を入れる耕作法を改良した、今迄は手で鍬や鋤で二寸か三寸を掘返して居つたものを二尺も三尺も掘返して耕作するやうにしたので、今迄よりも

二倍も三倍も收穫が殖へた。始めての機械はアメリカから取寄せたが、アメリカの大農主義の機械はイタリーのやうな山の多い平地の少ない國では色々不便があるので、勞資協調會に命じて研究させ、段々と機械を改良し、イタリーの農業に適するやうにした、ところが一寸困つたのはこの機械の運轉と修繕である、かう云ふ機械は一寸修繕する所が何處にもない、遠方までやつて修繕すると運賃が非常に掛かるので大變高いものになるから、是れはどうしても百姓自身でやらなければ駄目だ、また運轉も人を雇つたのでは不經濟であるから皆自身でやらなければならぬと云ふので、ムツソリーニは早速農業機械の運轉士學校を作らせて、それには農民ばかり入れて六ヶ月で卒業の出来るやうにし、此處を出た者は運轉士と簡単な修繕位は出来るやうにし、團體で工場を作り、そこで自ら一寸した修繕なども出来るやうにした。

それから灌漑用の水車なども作り、電氣ポンプで地下水を吸揚げて水利の便を宜くし。また種子についても優良種子を非常に奨励し、化學肥料も大に奨励して居る、日本の百姓はやはり人糞が宜いなど、云ふが、肥料はやはり化學肥料の方が宜いやうです、化學肥料なら、その作物によつて自由に其必要分を施すことが出来るから、どうも肥料は化學肥料の方が宜いやうです、農業も團體として共同事業でやると低利資金の利用にも都合が宜く、總べての點に於て非常に改革されて居りま

す。それから農業巡回講座と云ふものがありました、是は農業關係の資本家代表一人、労働者代表が一人、金融業者代表一人、農業指導技師一人、この五名から出来て居るので、一ヶ月に一回位巡つて来る、一市町村に對して大抵三日位滞在して色々の實地指導をするのであります。私の所ではかう云ふ肥料をやつて居るがどうも土が悪いか、能く育たぬ、夫にはかう云ふ肥料をやれば宜いとか、また煙草にはどう云ふ肥料が宜いとか、かう云ふ土壌には何を作つたら一番宜いとか、その他養蠶のことも非常に奨励して居ります、家庭の副業として女子供の仕事としてやらして桑苗はどれが宜いとか、蠶卵紙はどう云ふものが宜いとか、一々その家庭に這入つて一軒々々に個人を指導して貰へる、さうして道具でも金融でも迅速に世話をして次に来る時に持つて来て呉れる、日本の農林省などは農業低利資金と云ふ法律はあつても、實際の制度はないと云つても宜い、日本の農業低利資金は百姓が態々借りに行かなければ借りられない、役人は椅子にそり返つて煙草をのんで居つて、何んとか喧しいことばかり言つて居つて却々借りられない。イタリーは百姓は家に居つて大抵のことは間に合ふやうに指導して貰つて居ります。

開墾費用の大部分は

國家から支出される

イタリーの南部の一部其處に這入るとマラリアに罹る沼地があります、その面積はイタリーの全面積の十三分の一ありますので、今迄は非常に困つた所となつて居つた、それを今度イタリーでは開墾して優良の耕作地となりつゝ、あるので、既にその半ば目的を達して居る、今三分の一ばかりは工事中である、それから南部にも三萬町歩ばかりの開墾地があり、一萬町歩ばかりは去年一年で出来上つて、後の一萬何千町歩と云ふものは三年位で完成することになつて居ります、しかもこの開墾は唯耕作地だけを作ると云ふだけでなく、その中にはアスファルトの道路を造り、並木を植え、銀行を作り、學校を建て、病院、お寺まで作つて、農民の住宅も建て、かなりの仕事をやつて居ります。政府はそれらの費用に對し八割五分の補助金を呉れます、中央政府から七割、縣廳から一割五歩、併せて八割五歩の補助金があるから後は一割五歩負擔すれば宜い、それからこの開墾について政府は必要と認むる時は地主に強制開墾を命ずることもある、國家の富を増進するために必要と認められた時は強制開墾を命じ、若しこの命令通りやらない時は政府はこの土地を荒地として買上げて

仕舞ふ、さうして政府の手で開墾を行ふ、イタリアではかう云ふ大事業を澤山費用を使つてやつても、結局は非常な利益である、國家の富を増す、少しも損はない、國家の收入を百年千年の後までも増して行くので決して少しも損はない。併しかう云ふ大事業は一年や二年で直ぐ引繰返るやうな政黨内閣では出来ませぬ、本當に國家百年の大策を立てるには最も力強い内閣でなければ出来ない、私はイタリアの農業政策を見て誠に羨しく思ひます。

日本の在郷軍人會は何がために設けてあるかと云いたくなる、意味をなさない唯時々呼出して一、二、三、四を言はせる位のもので、何んにも意味をなしてゐない、それで在郷軍人は政治運動に關與すべからずと云つて居るが、選挙にでもなると、一生懸命に飛廻つて政治運動をしてる者が少くない、併し國家を思ふ點に於ては在郷軍人は外の人々よりも強い力を持つて居る、私が新潟縣の小作爭議に行つた時に、一番初めに役人の悪口を言ひ、次に資本家の悪口を言ひ、併し乍ら諸君等も考へ直さなければならぬと云つて一番仕舞いに労働者の悪口を言ふ、さうして同じ畑に出来る物を食つて、朝晩顔を合せるやうな間に於て互に喧嘩をしても仕様がなから、かうしたらどうかと云ふと大抵は諾いて呉れる、この時も在郷軍人だけは一人もこの小作爭議に加はつて居らなかつた、此點は私も感心した。

イタリアでは農業政策の一端として色々娛樂上の施設も致してゐる、例へば巡回劇場とか、巡回活動寫真とか、巡回音樂會とかさう云ふこともして農村の人々に娛樂を與へて居る、オペラなどもある。

それからイタリアでは低利資金を引出して共同して農業倉庫と云ふものも作つて居る、さうして收穫期に値段の安くなるのを防ぐと云ふやうなこともやつてゐる。日本では農村に自力更生をやらせやうなんと云つてゐるが、イタリアでは政府が自らどしどし色々な政策や計畫を實行して居る。日本では高い所からお前達に自力更生をせよなんと云つて、後は知らぬ顔をしてゐる、是では何んにもならぬ、以前も御役人は活動寫真まで作つて勤儉貯蓄をせよなんと云ふことを言つたことがあるが、一文なしで食へないやうな人達に勤儉貯蓄をしるなんと云つても貯蓄する金がない、唯當もなくて勤儉貯蓄をしると云つてもそれは駄目である。

イタリアの農業運動について一寸最後に一言だけ申上げて置きたいことは、イタリアの農業に對して今迄一番困つたのは旱魃でありました。是にはイタリアは非常に困つて居つた、イタリアは山が多くて雨量が少ないので、農業をやる人は此旱魃と云ふことに一番困つて居つた。ところがムツソリーニになつてから、山の谷間へ持つて行つて人工の大湖水を作り、また水力電氣も盛んにした

ので、旱魃の心配がなくなつたのみならず、水力電気が盛んになつたので、總べての仕事をするのに大變都合が宜くなつた、さう云ふやうにあらゆる自然を征服して、或は湖水を作り、或は水力電氣を起し、或は沼地を立派な耕作地となし、農民の不便は悉く救ふて居るやうな次第であります。日本などもどうしても國民全部が自覺し、力強い政府を作つて、本當の國家百年の計畫を立て、やつて行かなければ嘘です、國家のための政府でなく、政黨のための政府であつては困る、日本の國難非常時に際して一層この感を強くするのであります、かう云ふ時局に際會しては日本の國民が全部一緒になつて働いて行かなければならぬ。私は是から極めて謹嚴なる態度で、この目覺ましい我が同胞の動向を見せて頂きたいと思ひます、私は唯單にイタリーの見たま、感じたま、を、斷片的に秩序もなく極く簡單に皆さんに御傳へ申したに過ぎませぬ。(をはり)

久保田
久保田
久保田
久保田

昭和八年九月廿八日印
昭和八年九月廿八日發行

定價金拾五錢

東京市澁谷區千駄ヶ谷四ノ七五九

編輯發行 兼印刷人 久保田勝次郎

東京市淺草區松葉町九〇

印刷所 三秀社印刷所

不許複製

東京市澁谷區千駄ヶ谷四ノ七五九

發行所 長野縣人東京聯合會

電話青山三二七二番

振替東京三八八二二番

